

2026年05月25日開催

一般社団法人 日本開発工学会 第21回ビジネス・イノベーション研究会のご案内

研究会長（主査） 矢本成恒
研究会副査 原岡和生

平素より大変お世話になっております。第21回の研究会をご案内いたします。

Chat-GPTをはじめとする生成AIの進化はとどまるところを知りません。経済的にも明るい話題のひとつと言えましょう。反面、少子高齢化や地域の過疎化・地方創生に係る課題は、好転の兆しを見せません。

今回のビジネス・イノベーション研究会は、久々に地方創生に関わる内容です。広島県福山市で産業支援コーディネーターとして地域活性化に長く関わってきた渡辺幸三様に、ご自身の経験知としてケース・苦勞譚を提供していただき、地方創生研究・中小企業研究の新たな一歩に資することを目的としています。是非ご参加ください。

また、今回もOnLine（ZOOM）のみでの開催とさせていただきます。ご了承ください。

★ご出席頂ける方は、ZOOM定員把握のため、本研究会事務担当の原岡まで、メールでご一報下さい。
kazuoharaoka@fukan.jp

1. 開催概要

- ・日時：2026年05月25日（月曜日）19時00分から20時30分
- ・場所：ZOOM（パスワード無し） <https://zoom.us/j/2017621486>

2. プログラム

- 開会の挨拶 19:00-19:05
- 発表の部： 19:05から約1時間、QA約30分の予定

テーマ：「地域の産業支援活動と備後福山の中小企業・ものづくり」

渡辺幸三

びんご産業支援コーディネーター

広島県よろず支援拠点 福山サテライトコーディネーター

<略歴>

渡辺幸三（わたなべこうぞう）：関西学院大学卒業後、立石電機株式会社（現・オムロン株式会社）入社。2004年、個人事業「セイムファクトリ」を起業すると同時に、びんご産業支援コーディネーター、その後2015年から広島県よろず支援拠点コーディネーターとして活動する。広島県立福山工業高等学校産業教育コーディネーター、福山物産協会理事、エフエム福山パーソナリティなども歴任。63歳

オムロン退職後、妻の郷里・広島県福山市に移り住み、現在まで地域産業・まちづくり・教育振興に携わっており、年間1000件の事業者相談を行い、新入社員（450名～600名）、大学、高校、中学校に向け、「地域（福山）を知ると仕事・勉強がうまくいく！」という講座を行っています。

<概要>

本講演では、広島県福山市を中心とした地域産業支援の現場経験をもとに、中小企業の持続的成長と地域活性化に向けた実践的課題とその対応について考察する。

地方における中小企業は、少子高齢化や人口減少に伴う市場縮小、人材不足、後継者問題など複合的な課題に直面しているが、経営資源の制約から十分な変革に踏み出せない企業も多い。こうした状況の中で、地域産業の支援機関には、事業者の実行段階にまで踏み込んだ支援が求められている。

本講演では、多数の事業者相談に携わる中で得られた具体的事例を紹介し、販路開拓、事業再構築、人材育成などの支援の実際と、その成功要因・失敗要因を整理する。特に、地域特性を踏まえた支援のあり方や、企業の主体的変革を促すための関係構築の重要性について、実務的視点からの示唆を提示する。さらに、備後福山地域の産業・文化・歴史的背景にも触れながら、地域資源の活用と中小企業の競争力強化の可能性について考察し、地域全体として価値を創出する仕組みづくりについても議論する。

参加者のみなさんには、地域における中小企業支援の現状と課題を理解するとともに、実務に根ざした支援の在り方や、地方創生に資する新たな視点を得ていただければ幸いである。

以上